

国語 第5学年 伝記を読み、自分の生き方について考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第5学年の読むことの単元で、同社の年間指導計画例では12月に置かれている。漫画家・絵本作家のやなせたかしの生き方を描いた伝記。他社の教科書を使う学校では、伝記を読んで自分の生き方について考える単元（学習指導要領C(2)イの「伝記などを読み」）に置き換える。取り上げられている出来事と、本文での人物の呼び方は、使う教科書で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、伝記に書かれた出来事と、人物がその時にしたこと・考えたことを結び付けて、人物像を自分の言葉で説明できる。そのうえで、人物の生き方と自分の経験とを比べて、まねしたい所や自分とは違うと考えた所を文章にまとめ、友達の考えを聞いて自分の考えが広がったことに気付く。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕 (3)オ	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)イ	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(2)イ	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
〔第5学年及び第6学年〕 の目標 (2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕 の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(10)	(10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)オ	オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。

単元の目標

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く（(3)オ）。登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる（C(1)イ・オ）。伝記を読んで、人物の生き方と自分の生き方とを比べて考えたことを、進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（(3)オ）	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ） ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）	①進んで、伝記に書かれた出来事と人物の考え方を結び付け、学習の見通しをもって、自分の生き方について考えたことを伝え合おうとしている。

単元の流れ

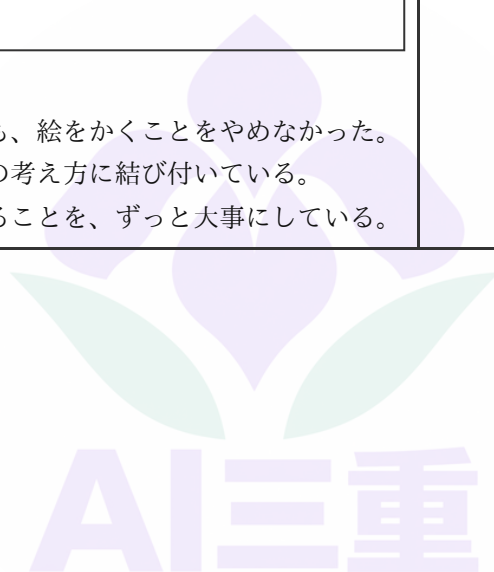
全5時間（読むこと5時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（5年）で、この単元は12月、読むこと5時間。次ごとの内訳（1・3・1）はこちらの案。年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第5学年で年間175単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○やなせたかしやアンパンマンについて知っていることを出し合い、範読を聞いて初発の感想を書く。 ○学習課題「伝記を読み、人物の生き方について考えたことを、自分の生き方と比べて伝え合おう」と学習の計画を確かめる。 ○学校図書館の伝記から、並行して読む本を選ぶ。	態①（初発の感想・観察）
第2次	2	○伝記に書かれた出来事を年代の順に「人生の年表」に書き出し、それぞれの出来事で「たかし」がしたことと考えたことを確かめる。 ○伝記には、事実と、書き手の見方が書かれていることを確かめる。	思①（年表）
	3 （本時）	○「たかし」の考え方が表れた描写を出来事と結び付けて人物像をまとめ、その生き方について自分の考えを書く。	思②（ワークシート）
	4	○並行して読んだ伝記の人物について、出来事と考え方を結び付け、自分の生き方と比べて考えたことを文章に書く。	思②（文章）
第3次	5	○書いた文章をグループで読み合い、感想を伝え合う。 ○伝記を読んで自分の考えがどう広がったかを振り返る。	知①（振り返り） 態①（振り返り・観察）

本時の案

本時の目標：「たかし」の行動や考え方が表れた描写を、出来事と結び付けて人物像をまとめ、その生き方について、自分の経験と比べながら自分の考えをまとめることができる。(C(1)オ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前の時間の「人生の年表」で、出来事と、その時に「たかし」がしたこと・考えたことを確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「出来事が変わっても、『たかし』の中で変わらなかった考え方はあるでしょうか」 【めあて】出来事と考え方を結び付けて「たかし」の人物像をまとめ、その生き方について自分の考えを書こう。 〈予想される児童の反応〉 ・つらいことがあっても、絵をかくことをやめなかった。 ・戦争での体験が、後の考え方に結び付いている。 ・困っている人を助けることを、ずっと大事にしている。	・年表を黒板の右側に貼り、出来事ごとの「したこと・考えたこと」の欄を示しながら確かめる。 ・本時は、出来事を覚えることではなく、出来事と考え方を結び付けることがめあてだと伝える。



段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 一人で読み返し、「たかし」の考え方が表れている描写に線を引く。 ○『たかし』の考え方が表れているのは、どの描写ですか」 4 線を引いた描写を年表の出来事と結び付け、変わらなかった考え方を短い言葉にまとめる。 ○「その考え方は、どの出来事から生まれ、後のどの出来事に表れていますか」 5 グループで、まとめた人物像と根拠の描写を説明し合う。全体で発表し、人物像を黒板に書き足す。 6 「たかし」の生き方について、自分の経験と比べて考えを書く。 ○『たかし』の生き方と比べて、あなたはどのように考えますか」 (型)『たかし』は、…という出来事から…と考えるようになり、…の時もその考えを変えなかった。わたしは…」 〈予想される児童の反応〉 ・戦争の体験から、本当に人を助けるとはどういうことを考えるようになった。 ・うまくいかない時期があっても、自分が大事だと思うことをかき続けた。 ・「たかし」は、あきらめずに続ける人だと思う。 ・自分の弱さも知っていて、それでも人を助けようとする人だと思う。 ・わたしは、うまくいかないとすぐやめてしまうけれど、「たかし」のように続けてみたい。 ・人の役に立つことは、大きなことでなくてもいいと思った。 ・自分とはちがうと思った所もある。	・本文の描写や台詞は、使う教科書から先生がワークシートと短冊に書き入れる（ここには載せない）。 ・線を引けない子には、年表の出来事を選ばせ、「この時、『たかし』は何を考えたか」が書かれた所と一緒に探す。 ・人物像を「すごい人」「やさしい人」の一語で終える子には、「どの出来事と、どの描写から」と返す。 ・伝記は、書き手が事実を選んで書いていることに触れ、書き手が人物をどう見ているかが表れた所にも目を向けさせる。 ・自分の考えは、「まねしたい」だけでなく、「自分とはちがう」と考えた所も、根拠があればよしとする。 ・早く書けた子には、並行して読んでいる伝記の人物と比べさせる。
まとめ (分)	7 書いた考えを二、三人が読み上げ、考えの違いを確認する。 8 振り返りを書く。	・振り返りは「描写を結び付けて考えた人物像」と「伝記を読んで自分の考えが変わったこと・広がったこと」の二つで書かせる。 ・次の時間は、並行して読んだ伝記で同じように考えを書くことを伝える。 ・人物の生き方を手本として押し付ける話し方にしない。 ◎思② 出来事と描写を基に人物像をまとめ、その生き方について自分の考えをまとめている。(ワークシート)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ。右端に日付・題名・めあて。その左に「人生の年表」（出来事を年代の順に右から左へ並べ、下の段に「したこと・考えたこと」）を貼る。中央に、子どもが線を引いた描写の短冊（先生が教科書から書き写した物）を年表の出来事と矢印で結び、その下に「変わらなかった考え方」をまとめた言葉を書く。その左に、グループで出た人物像の言葉を根拠の出来事と一緒に並べる。左端に、自分の考えを書く時の文の型と振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は四つ。一つ目、出来事を順に並べるだけで、人物の考え方まで書けない。手当ては、年表に「したこと」と「考えたこと」の二段を作り、考えたことが書かれた描写を必ず書き添えさせること（C(1)イ）。二つ目、人物像を「すごい人」「えらい人」の一語で終える。手当ては、出来事を二つ以上結び付けて「どの時も…だった」と言える考え方を探させること。三つ目、「自分も見習いたい」の一文で終わり、自分の経験と比べた考えにならない。手当ては、「自分ならどうするか」「自分の経験で似たことはあったか」を問い、違うと思った所も書いてよいと伝えること（C(1)オ）。四つ目、伝記に書かれていることを、全部が人物の言葉だと思って読む。手当ては、事実の文と、書き手が人物をどう見ているかが表れた文を色分けさせること。

プリントの案

人生の年表（単元を通して使う）

横に出来事を年代の順に並べる枠。縦に「出来事」「『たかし』がしたこと」「『たかし』が考えたこと」「根拠の描写（書き写す）」の4行。C(1)イを表の形にしたもの。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。

本時のワークシート（人物像と自分の考え）

上に「変わらなかった考え方」を短い言葉で書く枠と、それが表れた出来事を二つ書く枠。中ほどに人物像の文、下に「自分の経験と比べて考えたこと」の枠と文の型。C(1)オに合わせた。

事実と書き手の見方の色分けカード

伝記の文を「事実（いつ・どこで・何があった）」と「書き手の見方（人物をどう見ているか）」に分けて書く二つの欄。第2時と本時で使う。

並行読書の伝記カード

人物の名前、本の題名と作者、強く残った出来事、その人物の考え方、自分の生き方と比べて考えたこと。〔知識及び技能〕(3)オに合わせた。

読み合いと振り返りのカード

友達の文章を読んで「考えが同じ所」「違う所」「自分の考えに加えたいこと」を書く欄と、振り返りの二つの欄。C(1)カ、〔知識及び技能〕(3)オに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価標準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（5年）の本単元の行。単元名・時期（12月）・配当時数（読むこと5時間）と指導目標の指導事項の出典。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第5学年175・第6学年175）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県教育委員会「みえ地物一番給食の日」にかかる指導案集（平成24年）ほか、三重県で公開されている小学校の学習指導案。見出しの順と表の列の形だけ使った（中身は写していない）（<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000058456.pdf>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

